

健康経営の取り組み ～ 課題と目標 ～

当法人では、ストレスチェックやアンケート調査により、職員の健康課題を把握し、健康経営の推進に取り組んでいます。

高ストレス者率やワークエンゲージメントは、全国平均と比較して同程度ですが、依然として改善の必要がある状況にあります。ワークエンゲージメントは、仕事への生産性のほか、離職の防止などにもつながることから特に着目しています。2020年度の調査では2.6点であったことから、2021年度は2.8点を目指すこととしています。

障害者支援の業務における生産性は、利用者の皆様へのサービスに直結する課題です。職員が生き生きと働ける職場づくりに向けて、職員の健康課題やヘルスリテラシーの向上に取り組めます。

健康経営に取り組む体制づくり

2019年度のアブセンティーズムは6日、プレゼンティーズムにおける生産性低下率は20.3%に対して、2020年度のアブセンティーズムは5日、プレゼンティーズムにおける生産性低下率は21.7%でした。

これらの数値は施設長会議で把握し、そのほかの生活習慣における調査結果をもとに具体的な施策を講じることとしています。

近い将来には、当法人の専門職を含めることや、近隣の社会福祉法人との連携体制の構築を目指します。

- ワークエンゲージメント… 仕事に対する「熱意」「没頭」「活力」の3つが満たされている状態
- アブセンティーズム … 傷病による欠勤
- プレゼンティーズム … 出勤はしているものの、健康上の問題によって完全な業務パフォーマンスが出せない状況